核兵器は悪魔の兵器

被爆地で平和への誓い新たに――＊

新津市は、平和を願う人たちと手をつなぎ、核兵器を廃絶して世界平和に貢献しようと、昭和六十年九月、「非核平和都市」を宣言しました。そして、この非核平和意識の一層の高揚を図るため、原爆被爆地の広島や長崎を訪れ、平和について研修を行う市民の方に、その費用の一部を補助する制度を設けています。

今年度も特に若い人への戦争体験の伝承という観点から、今年成人式を迎えた男女を対象に、この事業への参加者を募集しました。

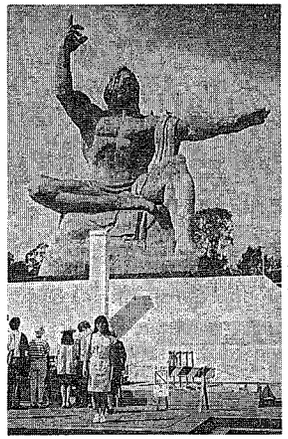
今号では、これに応募され、被爆地で平和研修を積まれた五十嵐陽子さん（美幸町三）と石川信一郎さん（新栄町）のレポートをご紹介します。

侵し続ける原爆の恐怖

五十嵐　陽子（美幸町三）

初めて被爆地長崎を訪れ、平和公園・資料館の見学や日赤長崎原爆病院見学を通して研修をしてきました。

長崎に着き、まず初めに平和公園へ行きました。緑の木々に囲まれ、鳩のたわむれる明るく美しい公園は、式典の準備やリハーサルが行われ、活気に満ち、原爆の悲惨さとは程遠いものの気分が和らぎ、軽い足取りで国際文化会館に入りました。しかし、それからの二時間余りは、驚き・恐怖・悲しみ・怒りなど様々な感情が渦巻き、会館の出口についたときにはほとんど放心状態でした。特に、受傷した被爆者や遺体の写真などは、あまりの残酷さに目をそらしたいと思いながらもそらすことができず、写真の前で釘づけになることが度々でした。「可哀相に」という初めの気持ちが次第に「誰がこんなひどいことをしたのか。許せない。」という怒りに変わり、そして「人間が人間でなくなってしまう戦争というものを二度と繰り返してはいけない。」という強い決意が湧いてくるのを感じました。この国際文化会館の資料は、原爆の惨劇をありのまま伝える貴重なものです。戦争体験のない私たち世代の人に、一人でも多く見て欲しいと思います。



長崎の平和祈念像前の五十嵐さん

さらに、看護を学んでいる学生として被爆者の医療に関心があったので、日赤長崎原爆病院を訪ね、見学をさせていただきました。昭和三十三年の開設時には被爆者が一〇〇％でしたが、現在は入院患者の五〇％程度だそうです。その中にはケロイドの形成手術や、突き刺さったガラスや金属片などの摘出手術をする人が今でもいることや、癌や白内障の患者さんが多いことも知りました。それだけではありません。被爆した人は体質的に病気にかかりやすく、しかも治りにくくなってしまうのだそうです。原爆は多くの人の生命を奪い、さらに生き残った人の健康まで侵し続けているのです。しかし、現在、被爆者が抱えている最も大きな問題は、身体面よりむしろ精神面にあります。「いつ病気になるのだろうか」という不安が常につきまとっているのです。少しでも身体に異常があれば原爆のせいだと思い、忌まわしい記憶が甦り、それが一生続くのです。たとえ病気を持っていなかったとしても、そんな精神状態で果たして健康と言えるのでしょうか。人々の心身の健康を奪ったのは原爆、そして戦争です。私たち一人一人の健康と幸福は、平和によって守られていることを強く感じました。

「現代の世界の平和は、核兵器を所有することで維持されている」と主張する人もいますが、こんな恐ろしい非人間的な物が平和を守るはずはないのです。核兵器を廃絶し平和を守るのは、やはり一人一人の平和への切なる願いであり、それを形にしていくことが大切だと思います。

お買物、ご用命は市内で

＝新製品好評発売＝

日本海名産 甘えびパイ

日本海でとれた新鮮な甘えびをパイに折込んだ風味豊かなパイのお菓子です。カルシュームのたっぷり入ったパリッとした日本海の風味をご賞味下さい。

特産 北国小僧 登録商標®

コーヒー祭り　100g　280円　10月6日(金)・7日(土)・8日(日)の3日間

にいつ　ホーサカヤ　本町2　☎22―0112

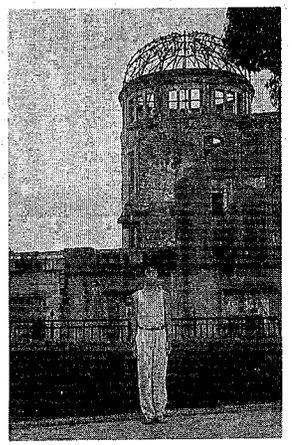
平和を守る責任を痛感

石川　信一郎（新栄町）

胸を弾ませつつも一抹の不安を感じながら、初めて広島市を訪れました。昭和二十年八月六日、世界で初めての原爆投下で市内の大部分が焼き尽くされてしまったこの街も、今では明るく、緑の多い近代的な都市に生まれ変わっていました。名所旧跡・名勝のほか、文化施設やスポーツ施設などが街の中心に集まっていて、安らぎとゆとりを与えてくれるかのようでした。縦横に絶え間なく走る自動車、バスそして路面電車。いつもと同じ生活をしている人々でいっぱいの商店街。どこを見ても、そこからは「戦争」を感じとることはできず、そこには「平和」な近代的な都市の顔がありました。

最初に、被爆した元広島県産業奨励館の残骸を訪ねました。「原爆ドーム」と言ったらわかりますか？　テレビや写真で何度も見たドームでしたが、実際に自分の目で見て、何とも言えない感じにおそれれ、何度も足を止め、しばらく見入ってしまいました。元安橋を渡り、平和記念公園を訪ねました。「原爆の子の像」、金色の折鶴を捧げ持った少女のブロンズ像。その下には全国から送られてきた何十万羽もの千羽鶴が寄せられ、とても印象的でした。昭和三十九年八月一日に点火され、地上から核兵器が姿を消す日まで燃やし続けられるという「平和の灯」。ハニワの家のような「原爆慰霊碑」。明るい日ざしの中をたくさんの鳩が飛び、それらの鳩とたわむれている子供たち。思い思いにくつろぐ人々の姿。――ああ平和だなあ、平和っていいなあとつくづく感じました。

そして「平和記念資料館」。完全に復興された近代的な町並みからは微塵にも感じることができなかった戦争の爪跡、原爆の惨劇を、この館内で全身に感じることができました。多くの観光客、修学旅行らしい学生、地元の人らしい家族連れと、館内は満員電車さながらに混み合っていました。しかし皆一様に、今まで見たこともなかったような被爆当時の写真や遺品などの資料に目を奪われていました。



原爆ドーム前の石川さん

「目を覆いたくなるような」とか「胸を締めつけられるような」という形容がありますが、ここで感じた思いは、そんなものでは表現しきれないものでした。食い入るように資料を見つめ、一時間ほどで出口にやっとの思いで辿り着きました。あまりの無残さ、悲惨さからでしょうか、力が脱けてしまい、気持ちが悪くなってロビーに座り込んでしまいました。

原爆ドームでおそれれた何とも言えない感じ。それは、レンガや鉄骨の哀れなドームの、戦争とは？　平和とは？　という私への問いかけだったと思っています。原爆慰霊碑の黒い石棺に刻まれていた「安らかに眠って下さい　過ちは繰り返しませぬから」という文章に、現在生きている私たちの責任の重さを痛感させられました。

原爆投下から四十四年。時代も昭和から平成へと変わり、戦争、原爆などに対して関心がだんだん薄れていきます。実をいうと、私もこれまで全く関心がありませんでした。しかし、原爆ドームと平和記念公園を訪れ、原爆資料を目の当たりにして、今回の体験は、私の人生にとって確実にプラスになっていくものだと思っています。

非核平和都市宣言

私たちは　私たちの新津を
緑豊かなまちに
文化の香り高いまちに
そして　お年寄りと子供が大切にされる
あたたかいまちにしたいと願っています
この願いは
一瞬にして生きとし生けるものの生命を奪い
あらゆるものを破壊しつくす核兵器とは
決して共存できません
私たちは
平和を願うすべての国の人々と手をつなぎ
核兵器の完全廃絶を強く訴えます
美しい未来と平和を　子供たちに伝えることが
私たちの責務と確信するゆえに
私たちは　ここに平和への誓いを新たにし
非核平和都市を宣言します

1985年9月

新津市

お買物、ご用命は市内で

第2回「'89ボジョレー・ヌーボの夕べ」
主催　新津市朝日121-1　(有)酒井商店
日時　11月17日(金)　夜6:30集合・夜7:00開演
場所　セレモニーホールさか井館　TEL24-5400
参加費　3500円（税込）
問い合わせ先　酒井商店　TEL 22-7675(代)　FAX 25-2722　担当　高橋・渡辺

ギョーザ　つけ麺大王　新津市本町二　TEL(22)七六七八

マーボーメン・鍋焼うどん
天ぷらそば・定食各種
新栄軒　☎(22)1854
越乃寒梅
新栄茶屋　☎(24)3773